

経済学部キャリアガイダンス実施教員に関するアンケート結果のとりまとめ

経済学部キャリア委員 水野 明日香

以下は、経済学部の「入門演習」において、4 月から順次始められたキャリア支援課職員による「キャリア・ガイダンス」後に提出された「教員用キャリア・ガイダンス・アンケート」をとりまとめたものである。文章形式での回答については、類似の回答が複数見られること、フィージビリティがあることを基準として、キャリア委員の主観で抽出した。なおアンケートの回答者数は 13 名であった。

1. キャリアデザインガイド1(CDG1)の内容と感想について

- (1) CDG1 の内容と感想に関して、次の諸点において高い評価を得た。
  - ・ 大変きれいな冊子、とても見やすい。
  - ・ 就職活動中、あるいはそれが迫った 3、4 年生だけでなく、初年次の学生に向けてのキャリアデザインについてもチャート式で詳しく書かれていて、大変良い冊子。
- (2) CDG1 の内容と感想に関して、次の諸点における今後の課題を指摘された。
  - ・ 本学のキャリア関連科目の紹介と履修モデルを示したページを加える。
  - ・ これをテキストとして、演習編も PDF ファイルか印刷(コピー)として、各章ごとに作成してはどうか。

2. キャリアデザインガイド1の活用状況について

既に「活用している」と回答した者は 4 名であり、これに「今後活用してみたい」と回答した 7 名を加えると、アンケート回答者の 9 割が活用に前向きであり、十分に活用が見込まれると言える。

3. 本学のキャリア教育に関する理解度について

理解度を 5 段階に分け、アンケートをとったところ、理解度を「3」とした者が 5 名、「4」は 6 名、「5」は 0 名であった。残りは「1」と「2」が各 1 名である。この結果からは、教員も本学のキャリア教育について概ね理解していることが窺われる。ただしこれは自己認識であり、実際に理解できているかを、何らかの方法で測定した結果ではない。

4. 本学のキャリア教育に関する今後の具体的課題について

- (1) キャリア教育の基本的課題  
学生の意識を高めるという課題を回答した者が複数見られた。
- (2) キャリア教育の具体的課題  
いかにして企業への就職に結びつけるかという課題を挙げた回答も複数見られた。就職は、キャリア教育全体の中では部分的なものではあり、「狭義」のキャリア教育となるが、大学におけるキャリア教育においては、就職につながることも大切であると思われる。

5. 「教職員一体」でキャリア教育に取り組むに際し、「教員」と「職員」の役割分担に関するアイデアや具体的方法について

- ・ グループディスカッションやブレインストーミング形式の授業を教職員で担当する。
- ・ 「教職員一体」型キャリア教育モデルの研究を行う。

6. キャリアガイダンスに参加しての印象や感想について

- ・ 少人数で行うべきである。
- ・ 就職が目前に迫っておらず、将来像を描けていない 1 年生にこのようなガイダンスを行うことが重要である。同時に、2 年次以降への積み上げも考える必要がある。

以上